調査事項の趣旨は

10月1日(水)は、国勢調査の日です。

明日のため今日の日本を知る調査

国勢調査

昭和55年10月1日(水)

◆氏名　氏名は、調査対象として誰が調査されたか、また各調査事項が誰について記入されたものであるかを確認し、調査もれや重複調査を防ぐために必要なものです。また、調査票の記入内容に不備があった場合に照会するときの手がかりとしても必要です。

なお、氏名はコンピュータには読み込まれません。

◆男女の別　出生の年月　人口の男女、年齢別構成のデータは、人口に関する最も基本的な資料です。老齢化が急速に進んでいる我が国の人口の基本構造の分析や将来人口の推計に欠くことのできない資料となります。さらに、他の調査事項と組み合わせて、福祉、雇用、教育、住宅など、あらゆる行政や計画の基礎となる重要な資料を提供します。

◆世帯主との続き柄　世帯の数やその構成は、人口とともに、雇用、住宅、福祉など各種の施策の基礎となるものです。世帯主との続き柄は、男女の別、年齢、配偶関係と組み合わせて、核家族世帯、老人のいる世帯、母子世帯など、世帯のタイプを区分する鍵となる調査事項で、住宅、福祉対策をはじめ、世帯を対象とする行政に必要な資料を提供します。

◆配偶者の有無　男女の別、年齢と組み合わせて、将来人口の推計、出生力の分析などの基本的な資料を提供します。また、就業関係と関連させて、婦人の労働問題、雇用対策などの基礎資料を提供します。高齢者の配偶関係別のデータは、老人福祉対策の資料として用いられます。

◆国籍　日本人と外国人とでは法律上の義務権利を異にするため、行政上は日本人人口と外国人人口を分けた数字が必要です。また、男女、年齢別の日本人人口のデータは、出生率、死亡率の計算、生命表の作成の基本的な資料として使われます。

◆現住居に入居した時期

前住地　これらは、人口の地域移動に関する資料を得るための項目です。人口の移動に関する統計は、地域別人口の分析、地域別の将来人口の推計の基礎資料となるほか、総合開発計画、地域計画、環境整備計画などの策定に欠くことのできないものです。さらに、大都市問題、過疎問題などの対策にも用いられます。

◆教育　在学か否かの別及び在学学校又は最終卒業学校の種類は、国民の教育程度の実態を明らかにするための基本的な項目です。これから得られる統計は、文教政策の基本的な資料として用いられ、さらに職業などと組み合わせて、雇用、社会教育などの対策や、教育計画の基礎資料となります。

◆仕事をしたかどうかの別　国民の就業と非就業の状況を明らかにして、雇用政策、失業対策、社会施策などの基礎資料を提供します。労働力人口の大きさや構成は、国や地域の経済の発展に大きく影響しますから、これに関する資料は、経済政策や地域開発の基礎資料として欠かせないものです。

◆従業地又は通学地　通勤・通学による人の動きや、いわゆる昼間人口をとらえて、都市行政、地域計画、交通・道路整備計画などの基礎資料とするための項目です。上下水道計画、公共施設の建設計画はもとより、都市行政や地域計画、防災対策には、そこに住んでいる人口だけでなく、昼間の人口も考慮しなければなりません。その資料かこの項目から得られるわけです。

◆従業地又は通学地までの利用交通手段　上の通勤・通学の資料と合わせて、交通機関や道路などの整備計画、運輸行政、地域開発計画などの資料として使われます。

◆勤めか自営かの別　勤め先・業主などの名称、事業の種類（職業）　仕事の種類（産業）　これらの項目は、就業者の産業や職業別の構成についてのデータを得るためのものです。我が国の産業構造や職業構造は大きく変化しつつあり、その実態を明らかにする統計は、国全体や地域ごとの経済や社会の構造をみる基本的なデータです。したがって、それは、社会経済計画や産業・雇用政策、地域計画、経済分析などの基礎資料として広く利用されます。

◆世帯人員　調査の単位である世帯を構成する者の数を確認するためのもので、調査もれを防ぎ正確に人口をとらえるために必要な項目です。

◆世帯の種類　家族のような一般の世帯や一人世帯と、学校の学生寮・寄宿舎で共同生活をしている寮生、病院の入院患者、施設の入所者など一般の世帯とは異なった形の集団とを区分する項目で、世帯の規模や家族構成、経済構成の分析、世帯数の将来推計などの基礎資料を得るためのものです。

◆家計の収入の種類　賃金・給料や農業収入、あるいは年金、社会扶助によって生計をたてている世帯がどのくらいあるか、またその世帯構成はどうなっているかなど、家計を支える収入源と世帯の関係を明らかにして、国民生活、社会福祉、雇用などの諸施策の基礎資料を得るための項目です。

◆住居の種類　持ち家に住む世帯、民営の借家に住む世帯、公営の賃貸住宅に住む世帯など、住居の所有関係の実態を明らかにするもので、住宅施策の基本的な資料として使われます。

◆居住室数　居住室の畳数の合計　住宅の規模に関する資料を得るための項目で、住居の所有関係や世帯の規模・構成と組み合わせて、世帯の特性と、住居の規模、居住密度など住居の特性との関係を明らかにするものです。これらから得られる世帯の居住状況に関する詳細な統計は、住宅問題や地域開発の問題などにとって基本的なものです。

◆住宅の建て方　一戸建の住宅は今日でも大きな割合を占めていますが、近年、都市では狭い土地を有効に利用するため、住宅の中・高層化が進行し、共同住宅の比重が次第に大きくなっています。この項目は、このような我が国の住宅の現状と地域的な特徴をは握して、住宅施策の基礎資料を提供するものです。

調査員です。よろしく

■物集女　山中吉和　高塚眞理子、中島清造、高橋勲、筱井清美、富田清治、黒田孝、安田博、西浦洋子、安達高司、北川多恵子、大居栄美子、中路徹、冨田一成、冨田均、安田タズ子、吉村善雄

安田久一　柴田光貞、山田勇、丸山いち子、青木美津枝、安田茂、石井誠、中山泰三、阪本孝、三品佐世子、山口彦一、松本五治、清水利夫、大倉康子、安田正、磯崎良、南条昇、榊原正巳、中村清、儀賀直博、岡田幸子

■寺戸　元部満　藤井正則、小林喜代治、永井陽子、岡崎静子、上田繁、萬代睦男、後藤博一、八木代志子、中村義之、箕浦裕子、大中カヨ、山元ヤス子、薄田美代子、中釜清光、中村広子、田中輝子、元部佐市郎、田中清一郎、奥山謙蔵、上羽宏昌

岡崎雄至　中村行信、中村正春、建口弥一、長谷川健志、細川快次郎、長谷川宏、長谷川みよし、伊藤清子、梶光伸、片山房枝、片山志津子、志賀敏夫、大西妙子、中村フサ子、中村孝三

小森憲治　文字一郎、辻山功、廣川重次郎、松永成正、山本章、奥田賢治、松田菟、三谷広心、人見治森治子、山口修一、戸田ことみ、佐藤鐵夫、濱田末廣、川島恵美子

山本正信　井古テル子、圓山和子、岡田澄子、松井みつ、鈴木愛子、森田照子、長谷川喬子、山本幸子、阿加井明矢野雄一、播口久雄、長谷川清次、川端伸章、安川繁子、尾本信義、丸谷千代造、中島智重子

安井薫　小林富子、長谷川詔一長谷川昭、岸本満寿雄、保科幸利、中村贅四郎、小山新一、八木喜男、杉山重雄、杉山義一、増田英美子、長谷川久枝、湊英夫、島中聰、中和寒造、渡辺寅之、五十棲俊一、渡辺卯一郎、稲本稲二

風間幸晴　中村修、若林弘、南本政計大伴富造、福嶋忠、加茂野友一、三好栄、藤本康彦、木村忠夫、松田文子、岡崎絹子、竹村信雄、高取勇、藤岡昇土橋忠夫、佐野勝恵、大江正雄

藤川俊雄　山口政雄、大藤良勝、藤田嘉久、堀井良一、松準三、向井幹雄、山下昭二、中山枝美子、羽柴経治、後藤康男、薮内正雄、伊藤正紀、中村勇友村秀夫、加藤安彦、小山智弘

木村卓司　川辺勢津子、奥田幸子、中野早苗、大西信夫、河野一清、長谷川勇、尾形勇、五井外貴雄、沢田晟一、熊谷智夫、藤田郷夫、細見末松、東嶺也男、田上酌、猪飼久吉、山本健男、丸山好

能勢祥訓　八木順子、田畑洋、長谷川弘司、前田晴子、上野栄作、嶋岡正、高岡繁太郎、北林為一、青木栄二、畑中誠二、高橋弘夫、大塚勇、松本陽子角則重、平松テイ子、柴田嘉延、太田忠臣、伊勢木末吉

■向日台　桧谷邦雄　増尾修、原田みつ江、松本降司、松岡時博、宮部茂、岡正、中溝学、筌田紗布郎、清水利正、金子京子、白井恒雄

■向日　桧谷邦雄　小山清一、滝本典義土井哲夫、岸上伊一、辻井良昭、片山孟

■西向日　山本栄二　三木紀久江、塩尻求、戸倉米造、岡本光、寺倉崇、天目長四郎、川瀬郁男、藤原長之助、市瀬義信

■鶴冠井　西博三　本田シゲ子、生嶋寅木村典子、生嶋幸男、上田鞘子、五十棲一男、武山綸作、大嶋政夫、鎌田勇五十棲一男、清水利一、橋本よ志子、湯浅美智子、高岡加藤、上辻種治、久保政雄、藤沢理一、中組貞夫、吉田貞三

生嶋弘　橋本政一、橋本庄次、生島豊和、鎌田幸男、五十棲宏、高橋節子、村田元子、山田真一、谷藤平人、片山竹夫、藤田伊和、中嶋三郎、大西武雄片山良勝、藤井勇、中島純次、谷口茂仕名野敦雄、森下富士夫

■上植野　沼田稔　井上進、小林三千子井ノ上種夫、島川健二、安井宗夫、井上英明、森武、小林成男、垣内富美子玉城恒治、小林英三、堀池清治、清遠香代子、植田勝、小泉繁野、田中義和山田一男、木下貞子、浅田一郎、砂川秀雄、和田武

安田豊　和田孝、滝本茂、橋本公子、日高雅子、柴田勝治、川口博子、平井都子、林田寛、高島富江、植田節子、山本紘、安達千代子、安田豊、岸本靖澤本嘉男、竹内和子、平井多恵子

山本栄二　古谷一美、森宣子、林田初枝、長谷川清、中山幹、安田幸子、湯川博司

■森本　岡本敏　牧野克子、溝三郎、橋本長平、小島種三、寺元謙逸、塚田源堂、小向みて子、吉住裕雄、一口茂、村井信明、山中慎一、一口勝治、井上欣子、清水計征、杉本喜代巳

辻山久和　天野祐吉、森隆広、清水尚史、宮坂十四三、山下利夫、中川高夫今西正二、清水良治、清水克次、林典克、森英夫、徳永正秋、本多庸義、森田満、辻山忠雄

※ゴジック体は指導員

9月21日～30日　秋の全国交通安全運動

秋の全国交通安全運動が、9月21日から30日までの10日間くりひろげられます。

この運動は、すべての者に交通安全思想を普及徹底し正しい交通ルールの実践を習慣づけることにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的としています。

京都府においても、次の3点を運動の重点に置き、運動を進めていきます。

◆歩行者、特に老人と子どもの交通事故防止

◆自転車および二輪車の交通事故防止

◆安全運転の確保、特に無謀運転の防止

ドライブ運動　ちょっとした不注意　につけこむ睡魔

■ 夏の疲れにご用心 ■

夏の疲れの出る秋は、ドライバーにとっても、要注意です。例年、過労による交通事故死亡は、スピードの出し過ぎ、わき見運転、酒酔い運転に次いで第4位を占めています。

秋はまた行楽のシーズン。家族そろってドライブをする機会が多く、とくに大黒柱のご主人は夏の疲れをおして、行楽のロンダクター兼ドライバーとして大活躍しなければなりません。過労運転による事故を起こさないよう、くれぐれもご用心ください。